

事業所名： 介護予防施設 西光荘

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 事業所住所岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町村受理日	令和7年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・西光荘は、県内で唯一の天然温泉を入浴サービス提供している施設です。
 ・四季を楽しみながら天然温泉に浸かることで、体調の改善にもつながり、安心して生活を送っていただけます。
 ・看取りまではいかないものの、重度化した利用者様を訪問診療の先生と相談しながら、可能な限り介護サービスを提供しています。
 ・専任の看護師により利用者様の体調管理をすることで、安心して過ごせるようにしています。
 ・家族とのつながりを第一に、外出や外泊を気軽にできることで、利用者様にいきいきと生活を送っていただけます。
 ・百歳を越えた利用者様、健在で過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、放牧地や森林など豊かな自然に囲まれた静かな場所に立地している。敷地内には法人が運営する温泉施設と小規模多機能ホームが併設されている。環境変化に敏感な高齢者にとって、介護度に応じて段階的な移行が的確に行えることや、多機能ホームの大型浴槽の利用、顔なじみの職員がいることで安心感がある。さらに避難訓練やイベント等を合同で実施できる利点もある。入浴は天然温泉を利用しているうえ、利用者は、みかん湯や桃の葉湯のほか、窓を開けて四季の移り変わりを眺めながら入浴のひと時を楽しんでいる。看取りは行っていないものの、かかりつけ医と事業所の看護師のサポートによって可能な限り住み慣れた場所で安心して過ごせるように支援している。夏祭りや敬老会にはボランティア団体が歌と踊りを披露し、秋には町内の小学校の児童が歌や楽器演奏を行ってくれるなど、地域との連携も大切にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・毎朝の申し送り時に基本理念、介護理念、介護目標を唱和して、職員の共有に努めている。	開設の際、職員全員で話し合って策定した基本理念と介護理念は、毎朝唱和することなどにより深く浸透している。理念を踏まえ、言葉遣い、挨拶、コミュニケーションなどの大切さを奨励した職員信条をつくり、合同ミーティングで常に確認している。また、感謝と細心の注意を喚起したスローガンをつくり事務室に掲示するなどして共有し、実践に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	・季節毎の夏祭りや敬老会では、運営推進委員の方々に協力いただいたり、ボランティア団体に歌や踊りなどの催しを披露していただいている。	事業所は酪農地帯の中にあるため地域住民との交流機会は少ないが、事業所が毎年実施する夏祭りや敬老会には奥州市などのボランティア団体が歌と踊りを披露しているほか、町内の小学校の児童が来所して歌や楽器演奏を行い交流を深めている。近隣の住民から果物や野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・職員が駒子の湯に出向き、「筋力アップ講座」で血圧測定や健康的に老いることの大切さを実感していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2カ月毎に開催し、地域・行政・家族代表の委員より助言・意見をいただいている。	コロナ禍を経て一昨年から対面方式で開催している。会議では利用者の状況、ヒヤリハット事例、外部評価の結果などの運営状況の報告を行っている。その上で消防団長経験者や民生委員の住民代表、利用者及び家族の代表、行政の職員から構成される委員と意見交換を行っている。元消防団長の委員からの避難訓練に関する専門的なアドバイスや福祉センター職員からコロナの感染状況の情報提供もあるなど有意義な会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・地域包括ケア会議、個別ケア会議に出席し、情報共有や協力を得ている。 ・町の担当者と連絡を取り、助言や指導をいただいている。また事業所からも常に相談、報告を行っている。	町保健福祉センターの職員が運営推進会議の委員として参加しているほか、地域包括ケア会議に管理者とケアマネジャーが出席している。役場担当者とは随時メールまたは電話で連絡をとり合うほか、要介護認定申請のため福祉課に直接出向くこともあり、その度に様々な助言をいただくなど良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・合同ミーティングで定期的に身体拘束についての内部研修を実施している。状況に応じて話し合い、日々の介護に取り組んでいる。 ・身体拘束をしないことへの理解はできているが、利用者の安全について考えると不安がある。	身体拘束防止に関する指針を定め、3か月に1回、法人全体で適正化委員会を開催して対策を協議している。職員全員が出席する合同ミーティングの際には、該当事例について話し合い理解を深めている。また、適正化委員会の委員を講師にスピーチロックなどをテーマに内部研修を実施している。玄関は夜間のみ防犯等のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・合同ミーティングで虐待防止について研修を行い、話し合いの場を設けている。 ・入浴時や排泄時に身体観察を行っている。変化があった場合には、看護師、ケアマネジャー、他の職員に報告し、話し合い、注意を払っている。場合によっては社長に報告し、内部研修につなげるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・年に1度、合同ミーティングで内部研修を実施している。 ・各種資格取得時にも学習している。		

令和 7 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約、解約時には、利用者、ご家族にご理解をいただけるよう、その都度丁寧に説明することを心掛けている。 ・利用者、ご家族の話を聴き、少しでもその思いに近づく様に努めている。 ・利用料金改定の際には速やかに報告し、理解、協力をお願いしている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の際や自宅に帰る際などにお話を伺っている。 ・ご家族から電話連絡の際に意見をいただいた場合には、その意見を反映するようにしている。 ・利用者の生活状況を定期的にご家族に報告している。 	<p>家族が面会で来所したり電話があった際に意見を伺っている。職員の言葉遣いについて家族から相談があり、事実確認を行い改善につなげている。玄関に意見箱を置いて家族等の意見を募っているが今のところ投函は無い。利用者や家族の意見を把握するためのアンケートの実施を考えており、現在、その項目や内容を検討している。</p>	<p>利用者や家族へのアンケート調査でサービスの現状を把握することは、サービスの質の向上や利用者の満足度、家族との信頼関係構築など、事業所運営の改善につながる効果があることから、内容や方法について検討し、実施されることを期待します。</p>
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、社長と面談を行っている。 ・職員からの意見、要望がある場合には、合同ミーティング等で話し合いをするようにしている。 	<p>運営する法人の社長が職員全員と毎年面談し、処遇や待遇などを話し合う機会を持っている。管理者は日頃から、職員の悩みや体調などの把握に努めている。合同ミーティングで職員の意見や提案を聞いており、体勢保持を助けるリクライニング式の車椅子の購入につながったり、せかさないで食事介助するための提案が日常の支援に活かされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・最低賃金の上昇に伴い、給与資金の足並みを揃えようとしている。まだ一部適正な配置に戻していない点もある。 ・職員の勤務状況の把握が少々不十分な面がある。 		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・内部研修を計画し、実施している。 ・外部研修の機会があれば、できるだけ参加するようにしている。 ・オンライン研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・管理者は地域包括ケア会議、ケアマネジャーは個別ケア会議に出席して、他事業者との情報共有、情報交換を行い、また相談の機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・利用を希望する本人、ご家族に対して、実態調査や担当者会議で話を聴き、困っていることや要望等に耳を傾け、不安を軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・施設の見学、体験をしていただき、施設の雰囲気や職員を見て、知っていただくことを勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・環境の変化に伴う事故の防止に努め、本人ができること、できないことを確認し、必要に応じた支援ができるように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・本人のできることを発見できるよう心掛けている。 ・洗濯物たたみ、食器拭き、新聞紙たたみ等を自分の役割、日課としていただいている。 ・他の利用者の簡単な見守りやお世話をする様子も見られ、支え合う関係を築いていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・利用者の活動、生活状況を月に1度、ご家族にお知らせしている。 ・利用者の様子に変化があった場合には、随時連絡、報告している。 ・通院は基本的にはご家族にお願いして、対応していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・町民文化祭に作品を出展して、見学に行くようにしている。	近所の知り合いが面会に来るほか、友人のボランティアが踊りを披露しに来所することもある。10月開催の町民文化祭に利用者の作品を出展する予定であり、それを見に行くこととしている。馴染みの冊子である「家の光」や新聞をホールに置いて、地域とのつながりが途絶えないように努めている。また、毎月末に理容師が来所し、週に一度ヤクルトレディが訪れるなど、新たな馴染みの関係も生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性をみながら、席替えを行ったり、必要に応じて声がけをして落ち着く雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・包括ケア会議で転所先のケアマネジャーに現在の様子を伺ったり、情報提供をしている。 ・ご家族からの相談があった際には、対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・一人ひとりに声がけ、会話をする中で、食べ物や塗り絵等本人の希望や思いに沿うよう努めている。困難な際には説明して別の方法を一緒に考えたりしている。 ・歩行、立位訓練をしている利用者には、応援、声がけをしてやる気を出せるようにしている。	言葉による意思の伝達が困難な利用者が半分以上いるため、仕草や表情のほか選択肢を示す方法で意向を把握している。利用者にはできるだけ多く声掛けするように努め、会話の中からそれぞれの希望を把握し、それに沿えるよう努めている。教職員の経験がある利用者には、現在の環境で生かせる役割を提案し、他の利用者に貢献できるように促している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・通所を利用していた方が入居されることが多いため。本人の人柄や病状を把握しやすい。また通所と同じ場所なので馴染みやすいと考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・利用者の健康状況や生活状況を、申し送りや合同ミーティングで話し合い、支援記録や申し送りノートで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・朝の申し送りや合同ミーティングで利用者動向から課題と対応について話し合い、ケアの見直しをしている。 ・利用者とのコミュニケーションによって、思いを受け止められるよう努めている。	入居申込みに際し、ケアマネジャーが調査しアセスメントによりプランの原案を作成している。入居して最初の1か月は職員全員でモニタリングを行い、タブレット端末に利用者の状況を入力してケアマネジャーが計画に反映している。その後は短期3か月、長期6か月ごとに見直している。見直しにあたっては、主治医の指導や看護師の助言を取り入れ、作成後は家族に説明し了解を得たうえで計画の実施としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・業務間のふとした瞬間や昼食後に関わりや気づきを共有、記録して職員間で確認している。 ・利用者のちょっとした変化、異変は職員間で共有。看護師や協力医(金ヶ崎診療所)に相談して、早めの受診に役立てている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・家族から外出の話がある場合には、外出するなど、いつでも柔軟な対応をしている。 ・施設の対応で逆デイサービスの提案もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・定期的な介護相談員の訪問がある。 ・理容師による散髪や「まなびい」を利用した読書は利用者の癒しや楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・大体の利用者には金ヶ崎診療所に主治医になってもらい、月に1度の訪問診療を受けて、健康状態を把握していただき、必要な薬を処方してもらい、その後の状態を報告している。必要に応じて専門医の受診、訪問歯科の受診をしていたい。	利用者8人が国保金ヶ崎診療所の訪問診療を受診し、他の1人は県立江刺病院に通院している。歯科は主に訪問歯科を利用し、整形外科、皮膚科、眼科などの科目を受診する際には、家族が同行することを基本としている。家族の申し出により、職員が受診に付き添う場合もある。受診に際して、生活状況の記録を提供し医療機関との連携を確実なものとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・利用者の全身状態の変化、異変に気付いた時には看護師に状況報告し、必要な場合には看護師の判断で受診が出来るような体制になっている。 ・月に1度の訪問診療時には必ず立会い、状態の報告をして、医師より指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した場合には、入院先の担当医と連絡を取り、経過の把握に努めている。退院時のカンファレンスに出席、もしくはFAXにて退院後の支援計画の情報収集をして、生活援助に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居時に認知症の症状の重度化に伴い、身体症状が悪化した場合は必要に応じて、次のステップへ移行していただくことを説明している。また悪化した時も改めて説明している。ただしADL全介助でも経口摂取ができ、他の身体症状がない場合は継続入居としている。主治医にも相談、指示を受けている。	事業所に機械浴設備がないこと、医療的ケアが可能な介護職員の配置が困難であることから、看取りができないことを入居時に家族に説明している。病状が悪化した場合には、担当医の指示を仰ぎながら可能な限りサポートすることとしている。食べられなくなった場合には、入院または特養への入所を勧めている。今後、重度化した場合や緊急の対応、具体的なケアの内容などを盛り込んだマニュアルの作成を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・合同ミーティング時、内部研修、オンライン研修を利用して、急変時の対応について学習する機会を設けている。対応にあたった職員、看護師が処置実践について必要事項を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災委員会が中心となり年2回訓練を実施し、地域住民(役員)の協力をお願いしている。また夜勤者が夜間に訓練を実施し、避難路の確認などを行っている。 ・自家発電機と蓄電器を合同ミーティング時に使用し、いつでも対応できるように準備している。	避難訓練は、地域住民代表の運営推進会議委員の参加を得て、法人全体として年2回実施している。加えて夜間想定訓練を事業所独自に8月と10月に実施し、避難経路に障害物がないかなどを確認している。ハザードマップ上、浸水想定区域になっていないことから、火災を想定した訓練としている。備蓄は3日分以上の食料、飲料水、自家発電機、蓄電池を備え、敷地内の事業所との連携、協力体制も築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・職員信条にある「言葉遣いは柔らかく丁寧にする」を心掛けて対応している。 ・親しい関係にあるため、つい指示的な言葉遣いになってしまう場面もあります。	耳が遠い利用者に声高に伝えようとする場面もあるが、どのような状況でも指示するような言葉遣いはしないように心掛けている。基本的に「さん付け」で呼んでいるが、同姓同名の利用者には個別の呼称を選び、一人ひとりを尊重することに努めている。ケース記録など個人情報を含む書類は鍵つきの書庫に保管するとともに、外部の人が目にする広報誌に利用者の写真を掲載するときは本人、家族の承諾を得るなど、プライバシーの確保に努めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・排泄介助はもちろんのこと、思いやりのある優しい声掛けを意識して対応している。 ・利用者の表情をみながら会話対応している。時には必要に迫られ、声高に声がかけてしまうこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・併設の小規模多機能型との合同レクリエーションへの参加、不参加や日々の作業等の希望を聴きながら、個々の体調を見ながら、各々のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・表情を伺いながら決めたり、自己決定できる方は本人の希望で着るようにしている。 ・不足している衣類はご家族に連絡して用意していただいたり、職員で対応している。 ・衣替えは定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・利用者に応じた、硬さ、大きさ、量で自力摂取できるよう支援している。上手く口に運べない方には声掛け説明して手伝うようにしている。 ・季節の山菜や手作りおやつを提供している。	主食と味噌汁以外は委託業者からの冷凍食材を湯煎して提供しているが、利用者の希望を業者に伝えてきめ細かく対応している。おやつはドーナツやパンケーキなど職員の手づくりで提供している。行事食にちらし寿司、唐揚げ、みたらし団子などを用意し、誕生会にはおやつを全員に提供している。利用者一人ひとりの好みやリクエストにも応え、皆で食事を楽しむことができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・管理栄養士作成のメニュー(外部)に沿って調理。 ・利用者それぞれの状態に合わせて、食事量、硬さ、大きさ、とろみを付けている。必要に応じてミキサー食にしている。 ・水分量は200ccを1日5回提供している。 ・主治医から意見、指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、口腔ケア時に口腔を観察して、自分で口腔ケアが出来る方でも必要に応じて仕上げ介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・トイレで排泄できることを基本に、排泄パターンを把握して、各々に合わせてトイレ誘導している。 ・失敗しても排泄があったことを喜んだり、体調を気にし合えるようにしている。 ・排泄用品は個々にあった物を用意して、変化がみられた時は随時職員で話し合っって対応している。	利用者の排泄傾向をチェック表で確認しながら、自然な誘導を心掛けている。失敗しても自尊心を傷つけることのないようにさりげない声掛けに努めている。布パンツ1人、おむつ4人、リハビリパンツ4人となっているが、おむつからリハビリパンツへ改善した方もいる。夜間にポータブルトイレを利用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食物繊維接種を基本に、乳製品や腸内細菌を増やす飲み物、水分補給を促している。 ・腹筋を刺激する歩行に目的を持たせるよう援助している。 ・便秘薬に関しては、主治医に相談、指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	・天然温泉を提供。 ・見守りだけで入浴できる利用者は少なく、血圧や身体状態によりシャワー浴、かけ湯、短時間入浴になっているが、時にはみかん湯、桃の葉湯、薬草湯にすることで入浴が楽しみになっている。	週2、3回天然温泉に入浴している。みかん湯や桃の葉湯を提供することもあり、桜の開花の時期には窓を開けて眺めながら入浴を楽しんでもらっている。隣接の小規模多機能ホームの大型浴槽を利用することもある。車椅子利用者には職員が複数で支援し万全を期している。利用者は、職員と会話をしながら入浴を楽しむことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・使い慣れた馴染みの物を自宅から持参していただいている。 ・室温、照明に気を配っている。 ・利用者の状態に応じて、入眠するまで側にいたり、声かけをして安心して眠れるように支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・看護師が管理し、利用者、職員には薬の効果や副作用等を説明して、必要性を理解し服薬していただいている。 ・薬には日付と薬の種類を記して、職員間でも声をかけあい、間違えないように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・テレビ・DVDなどを活用して、目や耳から入る刺激を大切にしている。 ・併設している小規模多機能型と合同の季節行事に参加。 ・洗濯物たたみ、食器拭き等自分の役割だと手伝ってくれる利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・通院以外の外出ができていないが、天気の良い日は小規模多機能型と合同でドライブに出かけたり、西光荘の周りを散歩したりもしています。 ・ご家族の希望で外出する利用者もいる。	コロナ禍で外出支援はまだ十分といえないものの、近郊の千貫石温泉、農業大学校、胆沢ダム、西和賀方面などに、桜や紅葉といった季節の風景をドライブで楽しんでもらっている。天気の良い日は事業所周辺を職員と一緒に散歩することもあり、草取り経験のある利用者には自発的に庭の手入れをやってもらうなど、外気に触れる機会を増やすように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・希望があれば応じられるが、コロナ感染が心配で現時点ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙が送られてきたり、電話があれば、対応している。 手紙の返事を書く際も必要に応じて支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・季節を感じられるような飾り付けをしたり、職員が撮った季節折々の風景写真を飾って、季節を感じてもらっている。	共用空間は、白い壁と木質床材により心地よい雰囲気となっている。利用者が日中集うホールは天窓から自然光を取り込み開放的である。廊下を含めエアコン、床暖房が設置され、年間を通して快適な温度を維持している。壁には季節ごとの写真や作品が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者間の関係に配慮して、席替え、テーブルの位置替えをしている。 ・車椅子の利用者が多くなってきたため、少し難しくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個室になっているので、本人が希望することは基本的に自由してもらっている。 ・馴染みの物、趣味の物、写真等を飾っている。	居室にはエアコン、ベッド、洗面台、筆筒、床頭台、カーテンが備え付けられている。利用者は、置時計、ラジオ、位牌、家族写真、ぬいぐるみ、観葉植物などの馴染みの物を持ち込み、慣れ親しんだ環境で過ごすことができている。部屋の入口にはネームプレートを貼って、利用者が自分の場所として認識しやすく、安心して生活できる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・施設内はバリアフリー、手すり設置。車椅子等福祉用具を使用するのに十分な広さがある。 ・トイレや居室が分かるようにネームプレートを貼っている。居室がわかりにくい方には顔写真が貼ってある。 ・小柄な方が多いので、トイレの便座に近い便器を設置した。		